

令和元年度 事務事業総点検シート(1)  
[平成30年度事務事業]

特別会計		事務事業分類		簡易点検	
事務事業名 家族介護慰労事業		シート番号		A 一般事務事業	
担当部署名 健康福祉 局		長寿社会 部		介護保険 課	
		評価責任者(課長名)		三井	

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	地域全体で支える福祉の仕組みづくり	無
	2	事業開始年度	平成 13 年度		終了(予定)年度	年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	介護保険法第115条の45、堺市家族介護慰労金支給事業実施要綱			
	4	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30～32年度)			
5	事業実施の経緯	平成12年度の介護保険制度創設の際に、介護保険とは別の仕組みで寝たきりや認知症の高齢者を介護している低所得の家族介護者に対して、制度以前の介護手当に代わる事業として始まった。平成18年度施行の改正介護保険法で、制度に新たに位置づけられた地域支援事業(任意事業)のなかの事業のひとつとされた。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input checked="" type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	低所得重度要介護者を介護保険サービスを利用せずに在宅で介護している市民税非課税世帯に属する介護者(複数の者が介護している場合は、主たる介護者。以下単に「介護者」という。)			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	上記介護者の、精神的及び経済的負担の軽減を図ることを目的とする。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	低所得世帯に属する重度の要介護者(要介護4又は5の方)が、一定期間何らかの事情により介護保険サービスを利用しない場合、当該高齢者を在宅で介護している同居家族を対象に、当該家族の精神的・経済的負担の軽減を目的として、年10万円を支給する。なお、支給決定に係る審査に際しては、必ず各申請者の家庭を訪問し、家族介護の状況の確認や介護サービス利用のご案内等の情報提供をしているところである。			
	10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

Ⅲ. 投入量

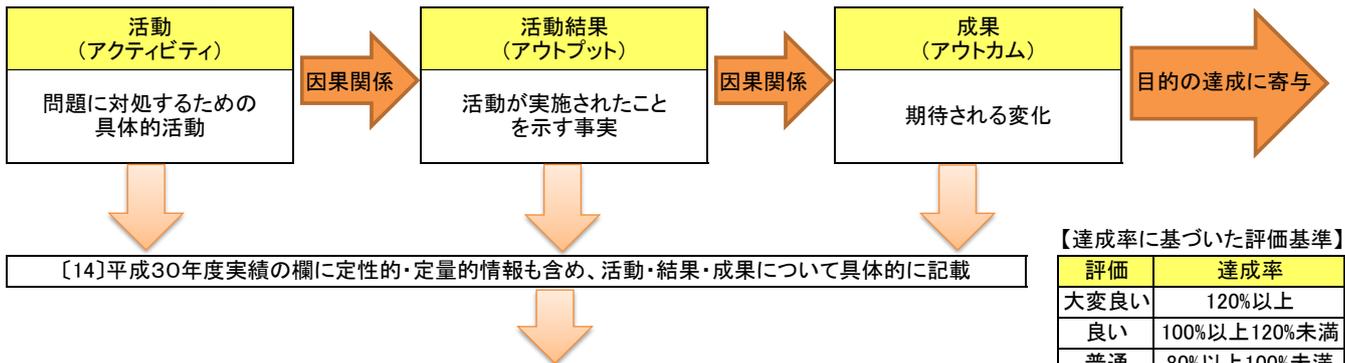
項目		単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業コスト	11 事業費 (a)	千円	401	501	301	1,001	
	主な事業費内訳	家族介護慰労金の支給	千円	400	500	300	1,000
		役務費(通信運搬費)	千円	1	1	1	1
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円	235	293	174	578
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
		市債	千円				
		その他(介護保険料)	千円	88	110	69	230
		一般財源	千円	78	98	58	193
	12	人件費 (b)	千円	1,640	1,640	1,640	1,620
	13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	2,041	2,141	1,941	2,621

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	家族介護慰労事業	シート番号	11-098
-------	----------	-------	--------

### ≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

#### ロジックモデルの考え方



【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

[14]平成30年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

#### 事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	申請を受理した案件については、サービスの利用状況、世帯課税状況等要件に合致しているか確認し、介護者・被介護者宅を訪問し、介護状況、介護者の介護負担度合いなどを聴取し、必要に応じて関係機関や社会資源の情報提供、利用についてのアドバイスなどを行ったうえで、基準に該当する申請者に対して、介護慰労金の支給を行った。						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		家庭訪問により、関係機関、社会資源の情報提供を受けた申請者の割合	%	目標値	100	100	100	100
				実績値	100	100	100	100
				達成率	100%	100%	100%	100%
	評価	良い		良い	良い	良い		
	算出方法・設定根拠など		申請者のうち、情報提供を受けた者の割合					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		慰労金受給者数	人	目標値	-	-	-	-
				実績値	4	5	3	-
				達成率	-	-	-	-
	評価	-		-	-	-		
	算出方法・設定根拠など		それぞれの家族状況、介護サービス未利用の事情は様々であり、受給者については目標値を設定することは出来ない。					

#### 業績の分析

17	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
事業において支給決定に至るまでに家庭訪問し、家族状況、家族による介護状況の確認、把握、及び必要に応じた関係機関等の情報提供を行うこととしている。これにより、保険料を払いながら、保険給付たる介護サービスを利用せず、家族介護を行っている介護者に対し、必要な情報提供及び虐待の有無の確認をし、介護者の精神的負担の軽減を図るとともに、経済的負担の軽減をすることができた。	

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。